

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4490400209		
法人名	社会福祉法人 若宮福祉会		
事業所名	グループホームすばる竹田園		
所在地	大分県日田市竹田新町2番33号		
自己評価作成日	令和4年12月15日	評価結果市町村受理日	令和5年3月29日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	
----------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	福祉サービス評価センターおおいた		
所在地	大分県大分市大津町2丁目1番41号		
訪問調査日	令和5年2月28日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

日田市の中心地に立地、家族の立ち寄りやすい環境で入居者の精神的な安定に繋がり、入居者の方も散歩、買物等生活環境は整っている。家族も立ち寄りやすく且つ静かな住宅地にあり、家族の力が加わることで、良好な入居生活が送れます。
 こども園とも連携しているので、こども達との触れ合う機会も多く利用者の笑顔、生きがいを生み出せるよう支援している。
 その人らしさを大切にし、自立した日常生活が送れるように支援をしています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

- ・同一法人運営のこども園との定期的な交流が、子供達と触れ合う楽しみや、利用者の活躍の場となり、地域との交流にも繋がっている。
- ・定期的な避難訓練の他、消防署立会いの下、近隣住民を交えての避難訓練が企画されている。
- ・行政の担当者に来所依頼し、利用者支援や事業所運営・現場の実情を伝え、情報の共有や連携に努めている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当する項目に○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	グループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	事務所(朝礼実施場所)に掲示しており、朝礼、職員会議等で確認と理解し一人ひとりが実践できるように努めている。 新規採用職員には必ず「理念」及び運営方針等の説明をしている。	理念に表現されている「自立支援」「その人らしさ」「社会性と共生」「生きがいの創生」に沿った支援や社会参加に努めている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	自治会に加入している為に、地域の情報等は得られている。 食育行事で日田焼きそばを作った時などは近隣の方におすそ分け等を行っている。(コロナ禍で一緒に食べることはできないため)	市報から地域情報を得ている。同一法人が運営することも園と合同で行事を行い、近隣住民との交流に繋げたり、祭りの部隊が、事業所敷地内に参集する様子を地域の方たちと囲んで楽しむ機会ももたれている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域貢献は出来ていない。 まだまだ竹田地区での認知度は低く、今後も地域におけるケアの拠点として機能していけるよう活動していく。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	奇数月に実施している。年/6回 出席者からの意見、助言については、優先順位をつけサービス向上に努めている。	運営推進会議は書面開催主体で行われている。事業所運営などを郵送し、ファックスで意見や提案を受けている。委員からの質問には、項目ごとに返信が行われている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議に出席いただき情報、意見、サービス等に関する疑問等も対応して頂いている。機会あるごとに日田市の担当者に来ていただき相談はしている。	担当の日田市役所福祉保健部職員に、利用者支援について相談、アドバイスを受けている。その際、担当者に来所依頼し、利用者の状況や事業所の現状把握・共有に繋げている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束委員会は必ず3ヶ月に1回実施している今年度0名である。 身体拘束についての研修も行い身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	前回の目標達成計画として、身体拘束・虐待・法令遵守などの研修の取り組みが行われている。職員の昼休み時間帯に事例動画を視聴し、自分たちの行動や支援について再確認が行われている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	特に今年度は、言葉での虐待にスポットをあて研修及び職員全員で話し合っている。 例えば「立ったらダメですよ」→「何がしたいですか？」その場、その場で注意し合っている。		

事業者名:グループホームすばる竹田園

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	成年後見制度については、専門分野の講師に依頼研修会を実施予定。 現在この制度利用している利用者はいない。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約または改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	重要事項説明書及びパンフレット等を用いてサービスの内容、料金等説明を行っている。疑問点等あれば都度対応している。事業所として、できる事、できない事は明確にするように努めている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	契約時に相談窓口の案内及び苦情受付窓口の説明を行っている。 利用者家族からの意見、要望などは職員全員で共有少しでも利用者の満足が得れるよう努めている。	遠方に住む家族からの提案で、ラインを活用して利用者の動画を送り、家族の安心に繋げている。家族対応の定期受診時の来所を意見や要望を聞く機会にしている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎日の朝礼時に利用者の変化があれば説明それに対する意見及び提案を言ってもらっている。年1回～2回全員ヒアリングを実施して、意見や要望を集約運営などに繁栄をさせている。	朝礼やケア会議を、意見を聞く機会としている。毎年、母体法人の運営者が職員の要望を聞く機会を持っている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	一律の評価でなく個々の能力に応じて評価、処遇への反映を行っている。働き方改革に沿って休日の取り方等は本人の希望とおりである。労働条件についても本人が働きやすい環境の整備を行っている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	ヒアリングで本人の考え方、思いを聞き現状にあったアドバイスを行っている。法人内外の研修には積極的に参加をお願いしている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	管理者には日田市グループホーム協議会の参加と交代でスタッフを同行させ他の施設の運営の勉強等をさせている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	サービス利用開始時に管理者、ケアマネが情報収集し職員と必要な事はすべて共有し利用者一人ひとりの思い、声に耳をかた向け安心して過ごせるように努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	上記同様にサービス開始時に管理者、ケアマネが利用者情報の中で困りごとの把握及び家族の思い、要望等を聞き反映させることで家族との信頼関係を築くように努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	アセスメントにより他のサービスを含めた計画及びケアプランに沿ったサービスの実施に努めている。変更があれば家族等にも相談し実施している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	利用者が出来る事は職員と一緒にいき、出来ない部分を介助することで、介助される生活でなく利用者の自立と暮らしを共にする関係を築くように努めている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	月1回～2回の家族との面談後施設での生活及び変化等を報告、相談している。県外の家族の場合は写真及び動画を月に1回送信利用者の生活を伝えている。病院受診やオムツ類の購入等は家族にお願いし近況報告をしている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	今まで利用していた馴染みの美容室、病院等利用していただいている。感染予防をして頂き兄弟等の自宅に訪問して頂いている。	毎月、同一法人の運営することも園の子供達との交流が図られており、季節行事やイベントを共に楽しむ交流が図られている。職員の支援を受けながら、家族に年賀状を送ったり、電話での交流支援を行っている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士の関係を考え食事の席配置など対応している。(よく話す利用者と同席等)。職員が間に入りコミュニケーションを図ったり、工作等一緒に出来る事を提供し孤立せず楽しめるように支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービス終了後も家族からの相談には応じている。 他の機関に移る場合は情報提供は行っている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	以前の暮らし、本人の状態、想い等を把握し可能な限り本人の望む暮らしの支援に努め、一人ひとりの気持ちを大切にしている。	アセスメントは、主にケアマネが聞き取り記録している。事業所利用開始後、日常の会話の中で思いを把握する機会も得られている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	家族からの情報収集し、家族には以前の暮らし方についてシート記入をお願いしこれまでの暮らしの把握に努めている。 利用者との会話の機会をつくり本人の想いなどの把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	毎日の記録を活用し朝礼時に情報の共有を行い、現在の身体把握し支援に生かすように努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	利用者の日々の状況把握し必要であれば計画の見直しをしている。介護計画を作成した場合は必ず家族に説明、意見や要望を計画に加えている。	利用者の情報を基に、介護計画作成担当者が介護計画を作成している。経過記録様式の変更により、利用者の個別記録が詳細になり、情報の共有に繋がっている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	利用者の日々の様子、気づき等観察し気になる事などを記録し朝礼でミーティング職員間で情報を共有し実践で生かされている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	利用者の状況に合わせ通院が必要な場合、リハビリが必要な場合等対応や方法の検討を行っている。現在コロナ禍で利用者ストレスにならないようにドライブ、園周辺の散歩等実施している。		

事業者名:グループホームすばる竹田園

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	もとの生活を把握し利用できるものは継続利用していただき、状況に応じ適切な機関へ紹介暮らしの支援に努めている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	利用者、ご家族が希望する医療機関から医療を受けてもらっている、かかりつけ医の変更はお願いはしていないが、通院が困難な場合は訪問診療を行っている病院への変更を提案している。訪問診療を受けている利用者3名	掛かりつけ医の定期受診は家族対応を基本としている。家族対応が困難で、訪問診療を受ける利用者もいる。精神科受診の際、職員が同行し減薬に繋がった事例もある。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	利用者の変化を看護職員へ報告協議、適切な対応が取れている。受診の支援も出来ている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院された際は、入院先に情報提供を行い、入院中は現在面会は出来ないが相談員、看護師から情報を得ている。退院前にはサービスの見直し、得た情報は共有を図っている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	現在は看取りは行っていないが重度化、終末期のありかたについては家族等と話し合い事業所で出来る事を説明している、必要であれば他の機関への移行等支援を行っている。	事業所利用開始時に、事業所方針を伝えている。食事による栄養摂取困難や、臥床時間増を重度化の目安として、家族や利用者の思いに沿った住み替え支援を行っている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	全ての職員が事故発生時の緊急時対応を身に付けるための訓練及び救急救命研修等を行っている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	火災、地震、風水害の避難場所は周知、今年度は水害、地震、火災の避難訓練を実施した。本年度3月にこども園近隣の合同火災避難訓練を予定している。	定期的な避難訓練を行っている。今年3月14日に、消防署立ち合いのもと、同一敷地内の小規模多機能事業所や近隣住民を交え、火災想定での訓練を企画している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	その人に合わせた声掛けや対応に努めている、人生の先輩として尊敬した言葉使いや接し方に注意支援を行っている。	トイレ誘導時の声掛けや、失禁時の対応など、周囲に配慮しての支援に努めている。日常の食事や仕草などから利用者同士の関係の配慮にも努めている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者の希望、訴えを傾聴し、尊重するように心がけている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人ひとりの生活リズムを大切にしている、日々の日課は決まっているが(体操、入浴等)強制はしていない、利用者の思い、都合で日を改め対応している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	利用者、家族が選んだ服、化粧品、髭剃り、髪の色等、これまでの習慣を続けられる支援している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	一人ひとりの好みの把握は出来ている、栄養士がメニューの説明をし食事をして頂いている。コロナ禍で食事の準備、片付けなどは行っていないが細かな事はお願いし柔軟な対応を行っている。(アレルギーのある利用者はいない)	食事は、同一敷地内の小規模多機能事業所で作られている。事業所の畑で野菜を育て、生育を楽しみ、献立やおやつとして活用している。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量、水分量を把握不足のないように声掛けを行っている、水分量の少ない利用者は家族より好きな飲み物を持ってきてもらう対応を行っている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、利用者に声掛けしできない場合には支援を行い、状態観察と清潔の保持に努めている。		

事業者名:グループホームすばる竹田園

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	トイレでの排泄を基本として、排泄パターンを記録し把握は出来ているので適宜支援は出来ている。夜間はポータブルトイレやオムツの利用者が多い。	日中はトイレでの排泄を基本としている。誘導や、自身でトイレに行く利用者など、それぞれ自主性を尊重しながら、声掛けや失禁対応が行われている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	運動の機会をつくり飲食物の工夫と水分量の把握を行っている、薬の処方がある利用者は看護職員に相談し便秘にならないように努めている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	週に2回は入浴を楽しんでいる、目安の曜日及び時間は決めているが入浴の間隔が空かないように注意し希望に合わせて入浴支援ができています。	週2～3回、午前の時間帯を基本とした入浴支援が行われている。ヒートショック対策の浴室暖房や浴室内の手すりなどの安全対策がとられている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	体調や状況に応じ休息を勧めたり、夜に安眠できるように支援できている。2名の利用者はお昼寝をしないので職員と一緒にテレビ雑誌等で過ごしている。居室の室温、湿度の管理も気持ちよく休めるように努めている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬管理は看護職員が行っている。職員全員薬の目的や用法、用量を理解している。薬が変更になった場合は職員全員に周知し様子観察が出来ている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	一人ひとりの生活歴、趣味楽しみごとで気分転換できるように支援している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるよう支援している	コロナ禍であったが、全員桜、梅の花見と高塚地蔵尊参拝等の外出行事を実施した。ストレスにならないように交代でドライブ等外出支援は出来ている。	天気の良い日にはテラスで過ごしたり、こども園の子供たちの賑やかな声を聞いて、子供達の様子を見に出掛けている。また、前回の目標達成計画として、複数の利用者での定期的な外出支援に取り組んでいる。	

事業者名:グループホームすばる竹田園

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	利用者はお金の所持はしていないが家族より預かった金銭は金庫で保管している、利用者が適宜使えるようにしている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話の希望があれば随時支援している、希望がなくてもある程度の期間がたてば職員から利用者に「電話しませんか」等支援している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共有空間の環境整備は日/2回実施している特に匂いのないよう気を配り利用者が心地よく過ごせるように努めている。 ホール、居室等は温度、湿度には気を配り居室には利用者が好きな位置に飾り物等を配慮している。	食卓の席順や関係に配慮し、利用者間の円満な環境づくりに努めている。共用空間の廊下は歩行訓練に活用され、天窓からの外光の調整や室温など、快適な環境づくりにも努めている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	利用者の性格や利用者同士の関係に配慮し、席の位置を工夫している。ソファの配置も気を配りゆっくり過ごせる空間づくりに努めている。天気の良い日はテラスを活用「日向ぼっこ」やおやつを食べたり気分転換を図っている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	普段より利用者が利用していた枕、毛布は持ってきてもらっている。利用者の写真及び家族写真等と利用者が作成したカレンダー、作品を各居室に飾り、以前と変わらないように努めている。	各居室は果物の名前が表示され、それぞれの果物の絵が飾られている。毎週、職員全員でシーツ交換を行い、居室の環境整備や管理を行っている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	居室からホールへ、トイレ、洗面所の生活動作が送れるように常に見守り、声掛けなどを行い安全に自立した生活が送れるように常に注意している。		